

# 短歌創作の実際

## 【孫あるいは子どもの歌】

### 講座内容

人間が生きてうたう歌でありたい。たとえ拙くとも、生きてかがやく歌を求めたいと思います。そのため基礎は、良い歌を十分に読み味わうこと。本講座では、テーマ別に秀歌名歌を読み味わい、語彙、語法を学びつつ、実作に生かしていきます。今回は、難関である「孫の歌」を中心に研究してみます。先人は孫の歌をどのように作っているのか、詩の深みを味わいつつ、実作の参考にしてみましよう。希望者は毎回実作レポートや鑑賞文を提出することができます。

期 間	10月7日～12月9日	受講料	6,000円
曜 日	月曜日	定 員	20名
時 間	13:30～15:00	会 場	横浜・関内キャンパス
回 数	全3回	持ち物	筆記用具、辞書、作歌ノート、原稿用紙
教 材	講師が毎回レジュメやプリントを用意します。		

### 講座スケジュール

回数	日 程	内 容
1	10月 7日 (月)	孫と子どもの歌の研究① 斎藤茂吉の孫と子どもの歌を見てみましょう。実作ワンポイント
2	11月11日 (月)	孫と子どもの歌の研究② 五島美代子の孫と子どもの歌を見てみましょう。実作ワンポイント
3	12月 9日 (月)	孫と子どもの歌の研究③ 窪田空穂の孫と子どもの歌を見てみましょう。実作ワンポイント

### 講師紹介



#### 阿木津 英(あきつ えい)

現代歌人協会会員 日本文藝家協会会員

一九七四年作歌を始める。第二波フェミニズム興隆の時代を共に歩いてきた。「産むならば世界を産めよもの芽の湧き立つ森のさみどりのなか」(第一歌集『紫木蓮まで・風舌』)。以後、日本語をもってつくる歌という韻文形式の森に分け入って久しい。歌集『天の鴉片』『黄鳥』ほか。評論集『二十一世紀短歌と女の歌』『アララギの釋道空』ほか。